

ページ

だけの方、お子さんのス
話題を募集しています!
課まで。

鈴虫の声が聞こえてきたら、秋の到
来です。花火はやりましたか?カキ氷
は食べましたか?思い出はたくさん作
れましたか?まだ夏を堪能していない
方、急がないと秋が来ちゃいますよ。

**あなたに
挑戦!**
No.249
広報クイズ

問1 平成18年7月豪雨災害での、災害
救援ボランティア参加人数は?

- 答え ①延べ2千人以上
②延べ6千人以上
③延べ1万人以上

問2 9月30日・10月1日に第11回○○○
縄文セミナーがあります。

答え ①イルフ ②鳥居平 ③梨久保

問3 岡谷温泉の泉質は?

- 答え ①単純温泉 ②鉄泉
③硫黄泉

ヒント…記事を読むと…。

— 訂正 —

広報おやか8月15日号「あつまれ!なかまたち」の
ページで電話番号に誤りがありました。
正しくは27-7232になります。
関係者の方々には大変ご迷惑をお掛けしました。
訂正してお詫びいたします。

◆広報クイズ応募方法

はがきに、答えの番号、住所、氏名、年齢、電話番号、ひと言を
書き、広報クイズ係《〒394-8510 岡谷市役所(住所不要)》ま
までお送りください。抽選で5名の方に武井武雄ラムラム王オリジナ
ルスプーンをお送りします。9月20日の消印まで有効。(ひと言は
15日号「みんなの声」に掲載させていただく場合があります)

市民しポーター だより

小平 陽子さんの
災害救援ボランティアレポート

平成18年7月豪雨は、岡谷市にとって初の大災害、
被災した方はどんなに不安で辛かったか、心の傷は計
り知れないことと思います。岡谷市は災害慣れしてい
ないとの声もありましたが、何とか力になりたいと、
色々な形でお手伝いした方が私の周りにも多くいまし
た。今回の災害で災害救援ボランティアセンターの中
心となって活動して下さった矢崎よし子さん、西野
正さんにお話を伺いました。

社会福祉協議会からの一報で駆けつけ、ひっきりな
しになる電話を取りきれないほどの市役所の慌しさを
目の当たりにし、混乱の中ボランティアセンターを立
ち上げました。物資も次から次へと届き、休みもまま
ならず、ひたすらこなしていく、という状態。それか
ら解散に至るまでの24日間、集まった皆が互いを気遣
いながら頑張ってきたそうです。

矢崎さんも西野さんも、普段からボランティア活動が生活の一部となっている方々。
しかしやれるときにやるというボランティアと違い、災害ボランティアは、待ったな
し。困っている方々を目の前にし、今すぐに動かなければならない。慣れないまま体
当たりでこなし、多くのことを学んだと話してくれました。

ありがたいことに連日、ボランティア参加の申し出があり、多い日で600名を越え、
延べ6千人以上の参加がありました。中には県外から旅行に来ていて災害を知り、そ
の足で参加した方、親子で参加した方もいたそうです。

土砂の掘り出しをして泥まみれになって帰ってくる方々
をはじめ、現場へ入る規制があった時も待機して下さった
方、少しの時間を割いて裏方の仕事に付いて下さった方、
一人一人の気持ちが出来てくれる励みになり、今回の災害は、
人のつながり、人の輪の存在を再確認させてくれたと、話
してく下さいました。

個々に活動をしていたボランティア団体も、一致協力して災
害という山を越えた事で、横のつながりが深まりこの経験が
大きな肥やしとなり、今後の活動に生きて来る事と思います。

参加した人たちの日誌には、有事の際の対応や、改善点
なども多くよせられた他、被災者の方々の苦勞を知ること
ができた、笑顔が見れてうれしかったとさわやかなメモが
残されていました。

ボランティア連絡協議会

矢崎よし子さん 西野 正さん



市民レポーター 小平陽子 さん



「子どもたちと
一緒に夢中に」

まつ い めぐみ
松井 恵 さん

- Q お仕事は何年目?
A 今年で3年目になります。
- Q お仕事を選んだきっかけは?
A 私が幼稚園の時の先生が、厳しいときには厳しく、遊ぶときには一緒に遊んでくれる先生で、とても印象に残っていたこと、姉の子どもを見ているうちに保育士になろうと思えました。
- Q 大切にしていること?
A 子どもたち一人一人の意見を聞くことです。泣いている子には、一緒に泣くこともあります。子どもたちにも共感してあげることが大切にしていきます。
- Q 大変な事は?
A 4歳児のバラ組みを受けもっているのですが、子どもからの「なげう」「なんでも」という質問に答えるのに苦労しています。それと、個性が出てくる時期なので、子どもをまとめるのも大変です。
- Q 休日は何をしますか?
A 友達と映画を見に行ったり、買い物に行ったりします。今年には海とプールにも行きました。
- Q 岡谷市のいいところは何ですか?
A 狭く入り組んだ道が多く、散歩コースにちょうどいいことです。
- Q 将来の夢は?
A 担当をした子どもの中から、自分を目指して保育士になつてくれる子が現れてくれたら嬉しいですね。

言葉を越えた姉妹都市交流

市民のみなさん、夏をいかがお過ごしでしょうか？
今年の夏、岡谷市の『海外姉妹都市高校生生活体験事業』で過去最多人数となる11名の高校生を迎えました。8月1日から15日まで市内外の家庭でホームステイをし、ホストファミリー受入家庭と共に、言葉や習慣の壁を越えようとしながら、日本の言葉や文化に触れ、また、岡谷市の歴史や文化について学び、貴重な経験を積みました。何人かの高校生にとっては、今回の岡谷市訪問が初めての海外旅行であり、いくつかの受入家庭にとっては、初めて外国人を受け入れる機会でもありました。

私は初めて日本に来たときのことを、あまりよく覚えていませんが、他の外国人が、日本文化を発見する様子を見ることを通して、自分自身の初

来日の時にした失敗や、驚き、発見したことが思い出されて楽しいです。

最初は、高校生とホストファミリーがお互いに緊張し、滞在中にコミュニケーションの問題や誤解がたくさんあったと思います。でも、お互いに慣れてきたところで、リラックスして楽しく過ごせたと思います。ホストファミリーのみなさんは、それぞれの家庭のやり方で生徒を迎え、おもてなしをしてくださり、高校生の第2の家族になってくださいました。

7月の豪雨災害の関係で、多くの事業が取りやめられ、今回受入日程を変えるしかなかったのですが、例年どおり、高校生とホストファミリーの方がかけがえのない貴重な思い出をたくさん作ることができたと確信しています。岡

谷で過ごした2年間のなかでも、今回の高校生訪問が、自分にとっても貴重な思い出になりました。

Kia ora!!



国際交流員の
セーラ・アキレス です

No.22